2020年度　英語英文学科履修系統図

ディプロマポリシー	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【関心・意欲・態度】
	英語という言語、英語圏の文学、文化及び英語によるコミュニケーションについて客観的に理解し、英語を通した相互理解ができる語学的な知識と聞き、話し、読み、書くという英語の運用能力を有する。	英米文学、英語、英語圏の文化やコミュニケーションの仕組みを理解し、それについての情報を分析する力や再構築するための論理的思考力、理解力を有する。英語で書かれた文献、文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ異文化を理解し、自分で考え、判断ができる能力を有する。英語圏を中心とした異文化を理解し、文化を超えた相互理解ができるための知識と表現力を持っている。	異なった文化、社会、価値観に関心を持ち、それについての理解・知識を社会に活用し、貢献する意欲を持っている。

科目区分	養成される能力等	1年次開講科目	2年次以降開講科目
基礎科目	基礎的な英語の4技能を習得してコミュニケーション能力の向上を図るとともに、自立的な学習を行う上で必要となる文法構造を理解し、英米文学、英語学・言語学、国際コミュニケーションの専門分野に関する読み物を通して基本的な英文読解力を身につける。	○Active English Ⅰ・Ⅱ ○Communicative English Ⅰ・Ⅱ ○英文法 Ⅰ・Ⅱ ○英語講読 Ⅰ・Ⅱ	
専攻科目	英米文学、英語学・言語学、国際コミュニケーションの3分野における基本的な概念を理解し、それぞれの分野に関する知識と研究方法を段階的に習得して、3年次からの演習に備える。また、中上級レベルの英語の運用能力を高め、異なる文化的背景を尊重する姿勢と国際的教養を身につける。	○英文学概論 Ⅰ・Ⅱ ○英語学概論 Ⅰ・Ⅱ ○General Introduction to International Communication Ⅰ・Ⅱ ○英国文学史 Ⅰ・Ⅱ ○英語音声学	○米国文学史 Ⅰ・Ⅱ ○英米文学研究 Ⅰ～Ⅲ ○聖書文学 Ⅰ ○英米文学講読 Ⅰ・Ⅱ ○英語学・言語学研究 Ⅰ～Ⅲ ○英語学講読 Ⅰ・Ⅱ ○International Communication Ⅰ～Ⅲ ○English for Study Abroad Ⅰ・Ⅱ ○異文化理解 Ⅰ・Ⅱ

3年次 履修コース	養成される能力等	3年次開講科目
英米文学履修コース	イギリス・アイルランド文学研究とアメリカ・カナダ文学研究を二本の柱とし、それぞれ詩・演劇・小説という三つの分野の世界を原文で味わう。多様な視点から分析する作業を通して、それぞれの国や文化の有り様や時代背景、そこに生きる人たちの精神、時代を超えた人間の営みと普遍的な人間性について、深い洞察力を持って考える力を獲得し、自身の人生観と価値観を築く。	○英米文学演習 Ⅰ・Ⅱ ○西洋現代文学概論 Ⅰ・Ⅱ ○英米文学研究 Ⅳ～Ⅵ ○聖書文学 Ⅱ
英語学言語学履修コース	英語学・言語学研究では、英語を中心に言語そのものを研究対象とし、音声・文法・意味などの多様な側面から、言語の構造や機能を解明する力を獲得する。英語教育学研究では、中等英語教育だけでなく、生涯学習や国際社会の中の英語教育を考察するとともに、母語と外国語の習得過程や英語学習法・指導法についても、理論的・実証的なアプローチで検証する力を身につける。	○英語学・言語学演習 Ⅰ・Ⅱ ○英語史 Ⅰ・Ⅱ ○現代言語学概論 Ⅰ・Ⅱ ○英語学・言語学研究 Ⅳ～Ⅵ
国際コミュニケーション履修コース	英語での講義とディスカッションを通して実践的コミュニケーション能力を身につけ、世界規模の問題や異文化への深い理解と関心・共感が持てるような多角的な視野と国際感覚を身につける。また、文学・文化とことば、グローバル教育や文化人類学などの多分野にわたる問題を扱うことで、学際的な共同研究を行う力も獲得する。	○International Communication Seminar Ⅰ・Ⅱ ○International Communication Research Ⅰ～Ⅲ ○Practical Communicfation Ⅰ～Ⅲ ○Media Literacy Ⅰ・Ⅱ ○Business English Ⅰ・Ⅱ

4年次（卒業論文）	養成される能力等	研究分野
卒論ゼミ	各自が選んだテーマに関する先行研究論文を読み理解し、課題を設定した上で、これまで学んできた知識と研究方法を活用して、課題への回答を導き出す。この過程を通じて、深く考える力と論理的な思考を養い、自らが行った考察と分析をわかりやすく正確に述べる能力を獲得する。	イギリス・アイルランド文学研究 アメリカ・カナダ文学研究 英語学・言語学研究 英語教育学研究 国際コミュニケーション研究

	養成される能力等	2年次以降開講科目	3年次以降開講科目
発展英語	上級レベルの英語を4技能にわたり獲得する。最新の時事問題等を扱い、批判的な視点で考え、英語で建設的な意見を述べる力を身につける。	○Interactive English Ⅰ・Ⅱ ○English Writing Ⅰ・Ⅱ ○英語 Ⅰ～Ⅳ	○Advanced English Ⅰ・Ⅱ ○English Writing Ⅲ～Ⅳ
学　科関連科目	英米文学、言語学、英語教育に関連する学問分野を学ぶことで、自身の専門領域に多角的な視点を与え、より広い視野で専門分野を研究する力を身につける。	○比較文学概論 Ⅰ・Ⅱ ○実験音声学 Ⅰ・Ⅱ ○英語科教育法 Ⅰ	英語科教育法 Ⅱ

全学共通科目	キリスト教文化研究所開講科目	1頁参照

2020年度　日本語日本文学科履修系統図

ディプロマポリシー	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【関心・意欲・態度】
	学科専門科目の履修を通して、日本文学、日本語学、言語文化の知識と方法を修得するとともに、全学共通科目の履修を通して、幅広い教養と世界の言語・文学・文化についての多様な視点を身につける。	日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野に関する研究を通して、問題意識を高めることで問題発見力を養い、資料を用いた論理的な方法と思考によって課題探究をし、柔軟な思考力と判断力を身につけている。それを通して、人間を見つめる豊かな知性と感性の涵養のもとで、自らの内面と「ことば」を磨き、リテラシーと教養を基盤とした表現力を高め、発信することができる。	日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野を総合的に見渡すことのできる広い視野と、自らあるいは他者と協働して問題を発見し解決する力をもって、積極的に社会や他者のために貢献する意欲がある。

科目区分		養成される能力等	1年次開講科目	2年次開講科目 種別		3・4年次開講科目		4年次（卒業論文） 養成される能力等	研究分野
基礎科目		日本語学・日本文学を研究するための基本的な概念を理解し、基礎的な知識や研究方法を身に付ける。様々な分野の授業を履修することで、自らの興味・関心を自由に掘り起こし、言葉・文学・文化に対する問題意識を育てる。	○古典文学基礎演習 ○近代文学基礎演習 ○日本語学基礎演習 ○日本語学概論Ⅰ・Ⅱ ○日本文学史Ⅰ・Ⅱ ○古典文学入門 ○日本語文法論Ⅰ・Ⅱ	○日本文学概論Ⅰ・Ⅱ ○日本語史Ⅰ・Ⅱ ○日本語音声学Ⅰ・Ⅱ					
専攻科目	日本文学	古代・中世・近世・近代の各時代における文学作品を素材として、専門的な研究方法を学び、知識・概念に対する理解を深める。授業の形態は、教員が専門分野の講義を行う特講、作品を精読して読解力を養う講読、学生自らが問題を設定して調査研究の成果を発信する演習に分かれる。幅広い時代の文学作品に触れて研究の具体相を理解・実践することで、文学にまつわる問題を自ら発見し、調査分析を通して論理的・実証的に解決をはかる力を身に付ける。	――	特講	○古代文学特講Ⅰ～Ⅳ ○中世文学特講Ⅰ～Ⅳ	○近世文学特講Ⅰ～Ⅳ ○近代文学特講Ⅰ～Ⅵ	卒論ゼミ	4年間の学びの集大成として、卒業論文を執筆する。自らの関心に従ってテーマを決め、先行する研究論文を読み、問題を見出す。言葉にまつわる様々な現象を、ここまでに身に付けた研究方法によって調査・分析し、設定した問題に対して有効な結論を導く。その論理的・実証的な思考プロセスを自らの言葉で発信し、他者に対して精確に伝える。	古典文学研究 近代文学研究
				講読	○古代文学講読Ⅰ～Ⅳ ○中世文学講読Ⅰ～Ⅳ	○近世文学講読Ⅰ～Ⅳ ○近代文学講読Ⅰ～Ⅵ			
				演習	――	○古代文学演習Ⅰ～Ⅳ ○中世文学演習Ⅰ～Ⅳ ○近世文学演習Ⅰ～Ⅳ ○近代文学演習Ⅰ～Ⅵ			
	日本語学	日本語学の専門的な知識と研究方法を修得する。教員が専門分野の講義を行う特講において、具体的な問題設定と考察の実例に接し、講読において語学的資料や基礎文献を自ら読解する方法を学ぶ。これらを踏まえつつ、演習において学生自ら問題を設定して語学的問題の考察に取り組む。	――	特講	○日本語学特講Ⅰ～Ⅳ				日本語学研究
				講読	○日本語学講読Ⅰ～Ⅳ				
				演習	○日本語学演習Ⅲ・Ⅳ	○日本語学演習Ⅰ～Ⅳ			
	言語文化	文学創作、日本語表現、書道など、言語文化に関する内容について、理論と方法を実践的に学ぶことを通して、日本の言語文化を継承し、創造していく資質・能力を育成する。また、日本文学、日本語学に関する知識を土台として、国語科教育、書道科教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習者主体の学習指導を構想し、実践していくための能力を身に付ける。	――	特講	○対照言語学Ⅰ・Ⅱ ○漢文学Ⅰ・Ⅱ ○日本漢文学史 ○文学創作論Ⅰ～Ⅳ				言語文化研究
					○書論・鑑賞法Ⅰ・Ⅱ ○日本書法史 ○中国書法史	――			
					――	○日本語表現法Ⅰ・Ⅱ	――		
			――	演習	○国語科教育法Ⅰ	○国語科教育法Ⅱ ○書道科教育法Ⅰ・Ⅱ	○書道卒業制作		
			実技 ○書法基礎 ○漢字仮名交じり書法Ⅰ ○楷・行書法Ⅰ ○仮名書法Ⅰ	実技	○楷・行書法Ⅱ ○草書法Ⅱ	○書写法Ⅰ・Ⅱ ○硬筆書法 ○書式研究 ○漢字仮名交じり書法Ⅱ ○篆・隷書法 ○篆刻法 ○仮名書法Ⅱ	――		

全学共通科目	1頁参照	
キリスト教文化研究所開講科目		
学科関連科目	言葉や文学の諸相に深くかかわり、互いに影響を与え合う学問分野について学ぶ。隣接諸学としての日本文化史・日本美術史の基本的な概念や研究手法を理解することで、自らの専門研究を相対化する視点を手に入れ、学際的な応用力を身に付ける。	○日本文化史Ⅰ・Ⅱ ○日本美術史Ⅰ・Ⅱ

2020年度　現代社会学科履修系統図

ディプロマポリシー	【知識・技能】	【思考力・判断力・表現力】	【関心・意欲・態度】
	社会学と歴史学を中心に、関連学問領域も含め、基本的な知識を総合的・体系的に修得し、史資料・データを収集・分析する技能を獲得するとともに、さらに専門的な学修を通して、過去と現在の社会の成り立ちと仕組みを見通す視野をもつことができる。	社会学と歴史学を中心とする総合的・専門的な知識・技能をもとにして、社会のさまざまな課題について、これまでの議論や知見を検討し、史資料・データの分析結果について深く、多角的に考察し、妥当性を判断した上で、その成果を、平易かつ客観的に、論理的な説得性をもって表現することができる。	過去と現在の社会の成り立ちと仕組みを見通す視野と、史資料・データの分析を通して得られる力とを基盤にして、社会の諸課題に関心をもって向き合い、多様な人々と調査や議論を通して協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につけ、また生涯にわたって社会に貢献する意欲をもつことができる。

科目区分	養成される能力等	1年次開講科目
基礎科目	現代社会学・社会史各分野の研究に必要な、基礎的な理論と方法の概要について修得する。基礎的なテーマに関する情報収集、分析、発表、討論、レポートの作成を行い、社会についての多角的・論理的な思考力と判断力を育む。現在と過去の社会の諸問題に意欲的に向き合い、主体的に学ぶ態度を身につける。	○現代社会学基礎 ○社会史基礎 ○基礎演習 ○現代社会学基礎演習 ○社会史基礎演習
専攻科目	現代社会学・社会史各分野の研究に必要な、基礎的な理論と方法について修得する。 両分野の研究に関わる調査の基本について理解する。	○社会学原論 ○社会史原論 ○社会調査論Ⅰ
共通科目	現代社会学・社会史両分野に幅広く関わる学問の基礎を学ぶ。	○地理学概論 ○人文地理学 ○自然地理学 ○地誌学Ⅰ ○地誌学Ⅱ
学科関連科目	過去と現在の社会に関する多様な知識を修得する。	○哲学基礎 ○経済学基礎 ○社会倫理学Ⅰ
全学共通科目	キリスト教文化研究所開講科目	1頁参照

2年次

分野	養成される能力等	2年次開講科目
現代社会学	現代社会学分野の研究に必要な、専門的な理論と方法、及び史資料・データを収集・分析する技能を修得する。	○理論社会学 ○社会心理学 ○社会集団・組織論 ○地域社会学 ○宗教社会学 ○家族社会学 ○教育社会学 ○ジェンダー論 ○社会調査論Ⅱ・Ⅲ ○社会統計学Ⅰ・Ⅱ
社会史	社会史分野の研究に必要な、専門的な理論と方法、及び史資料・データを収集・分析する技能を修得する。	○日本社会史Ⅰ・Ⅱ ○アジア社会史Ⅰ・Ⅱ ○ヨーロッパ社会史Ⅰ・Ⅱ ○地域社会史 ○宗教社会史 ○ジェンダー史 ○考古学Ⅰ・Ⅱ ○民俗学Ⅰ・Ⅱ ○史料講読Ⅰ～Ⅳ
2年次以降	現代社会学・社会史両分野に関わる学問の基礎、及び過去と現在の社会に関する総合的な知識を学ぶ。	○文化人類学
2年次以降	過去と現在の社会に関する幅広い知識を総合的に修得する。	○行政法 ○社会法 ○社会倫理学Ⅱ ○社会教育学 ○社会・地歴科教育法Ⅰ ○社会・地歴科教育法Ⅱ ○社会・公民科教育法Ⅰ ○社会・公民科教育法Ⅱ

3年次

履修コース	養成される能力等	3年次開講科目
現代社会学コース	現代社会学分野の研究に必要な、専門的な理論と方法、及び史資料・データを収集・分析する発展的な技能を修得する。同分野の専門的テーマに関する情報収集、分析、発表、討論、レポートの作成を行い、社会についての多角的・論理的な思考力と判断力を育み、説得性のある表現力を高める。現在と過去の社会の諸問題に関心をもって意欲的に向き合い、多様な人々と協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につけるとともに、社会の成り立ちと仕組みを見通す専門的視野を身につける。	○現代社会学演習 ○現代社会学特講Ⅰ ○現代社会学特講Ⅱ ○現代社会学特講Ⅲ ○現代社会学特講Ⅳ ○社会調査実習
社会史コース	社会史分野の研究に必要な、専門的な理論と方法、及び史資料・データを収集・分析する発展的な技能を修得する。同分野の専門的テーマに関する情報収集、分析、発表、討論、レポートの作成を行い、社会についての多角的・論理的な思考力と判断力を育み、説得性のある表現力を高める。現在と過去の社会の諸問題に関心をもって意欲的に向き合い、多様な人々と協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につけるとともに、社会の成り立ちと仕組みを見通す専門的視野を身につける。	○社会史演習 ○社会史特講Ⅰ ○社会史特講Ⅱ ○社会史特講Ⅲ ○社会史特講Ⅳ ○社会史特講Ⅴ

4年次（卒業論文）

	養成される能力等	研究分野
卒論ゼミ	現代社会学、社会史いずれかの分野の高度な研究に必要な、専門的な理論と方法に関する知識を総合的・体系的に修得し、史資料・データを収集・分析する発展的な技能を獲得する。専門的テーマに関するこれまでの議論や知見を検討し，史資料・データの分析結果について深く，多角的に考察した上で，その成果を，平易かつ客観的に，論理的な説得性をもって表現することができる。現在と過去の社会の諸問題に関心をもって意欲的に向き合い、多様な人々と調査や議論を通して協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につけ，また生涯にわたって社会に貢献する意欲をもつことができる。	家族社会学 地域社会学 社会心理学 社会集団・組織論 宗教社会学 日本社会史(古代・中世・近世) 日本社会史(近世・近現代) アジア社会史 ヨーロッパ社会史 考古学 人文地理学